



こうべ森の学校だより

No.60
2014年9・10月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

私のヒヤリハット

こうべ森の学校 代表・安全衛生委員長 東郷 賢治

森林ボランティアを始めた頃だったでしょう私は「ヒヤリハット」という耳慣れない言葉に巡り合ったが、何の事だかよく分からないまま、さして気にもしていない時期がありました。そんなまだまだ技術的にも未熟だったし、経験も浅かった頃のことでした。ちょっとした斜面で3～4mの木を除伐していました。直径は腕の太さ程だったでしょうか。受け口らしきものは切ったが、いい加減だっただろう。追い口を一気呵成に切ったものだから「倒れるぞ！」と言う間もあらばこそ。バリバリッと木は勢いよく倒れた。ヤッタ！と声を上げそうになったその時、倒れた木の枝先あたりから「あ～ら びっくりしたワ。木が私の方へ倒れてきたもん。」と、一人の女性が立ち上がって、さほど驚いた顔でもなく誰に言うことなく言った。私は「やあごめんごめん。近くに貴女がいるとは知らなかった。怪我はなかったですか？」と。幸いことなきを得てその場は終わった。後刻 私はこれがヒヤリハットだと言う言葉だけでなく、忘れられない実体験として今も記憶しています。

ここまで読まれた方は、今更安全マニュアルをひも解くまでもなく、どこに問題点があったのか。適確にご指摘いただけるでしょうか。一度仲間でこのケースについ



鉋講習会

て話し合っていたきたいものです。

安全衛生委員会では森でのさまざまな活動中に 怪我や負傷・事故などでトラブルが生じないようにするためにはどのような取り組みをしなければならないか、さらに、安全な活動をすすめるための会員の技術の向上や約束事を設けるなどを検討・実施してきました。

新入会員を対象にした「初心者講習会」・鉋の使用に関する「鉋講習会」・安全マニュアルの日常化とその徹底等など会員全員が正しい技術をマスターし、一つのルールの下でみんなが活動できるように努力してきました。他にも救急バッグを各班毎で森へ持って行きます。高枝切りやロープなどの使用法の習熟もスタッフの皆さんには求めています。毎年スタッフを対象に救命救急講習会で万一に備えての研修を積み重ねています。

こうべ森の学校の活動ではチェーンソーの使用は規制しています。他の団体や仲間では作業の効率化を評価して何らかの約束の下で使用しているところもあります。私どもは安全第一をモットーとして、森の手入れの原点を遵守すべくその使用を禁じています。認定講習で資格を取得された方が他のボランティアとして使われることまで制限することは出来ません。又、園内で自動車を運転する事さえも自粛しています。同様に森の作業所でも一般会員が使える機器はごく限られています。

こうべ森の学校がこれほどまで規制し、注意しているおかげで大きな事故は11年余ありませんでした。幸い

次ページに続く



平成 26 年 9 月 13 日例会にて

前ページから

なことです。ではこれまで事故ゼロだったかと問われま
すと、「はいそうです。」と手を挙げられません。何度か
病院へ走ったこともありました。自宅療養にならざるを
得ないケースもありました。それらは大事故には至らな
かったものの、私どもに何らかの原因があって、起こる
べくして起こったと言っても決して過言ではありません。

それがヒヤリハットなんです。ちょっとした不注意か
ら、確認不足から、準備の不行き届きから、言葉掛をし
なかったから、思い違いから、油断から、体調不良から、

再度山永久植生保全地について



1974年5月、国際植生学会日本大会のエクスカージ
ョンの一つが、再度山と森林植物園において開催されまし
た。

その際、現地を視察した植物生態学の権威であった故
T üxen (チュクセン) 博士は、来歴のわかった森林地
域で過去および将来の森林遷移を追跡調査することの重
要性を指摘しまし



た。

その指摘を受け
て、1974年6月
に神戸市は再度山
を永久植生保存地
として指定し、定

期的に群落の諸性質や土壌を調査、記録し、六甲山系の
緑の管理や育成に役立てていくという方針を採択しまし
た。

以後5年(1974年、1979年、1984年、1989年、
1994年、1999年、2004年、2009年)毎に調査され、
本年は40年目にあたります。

本年は、基本的にこれまでの調査を継続し、当地域に
おける植生遷移の実体をさらに詳しく研究するとともに、
生物多様性の観点からも検討し、今後の植生の維持、

道具の不具合から、加齢からなどなどきりがありません。

安全衛生委員会では、先ずスタッフの方々から、そし
て多くの会員の皆さんに呼びかけて自らの活動の中でヒ
ヤリハットはなかったか、振り返っていただきたいと呼
びかけることにしました。そして、「なぜ」と言う言葉
で自らに問いなおして小さな事故の原因を突き詰めても
らい、それを公表して頂くことで、会員皆さんが共有す
る事から事故防止の一助になればと願っています。次号
より森学便りが「私のヒヤリハット」の事故防止のキャ
ンペーンを始めます。ご協力を期待しています。
そして、事故ゼロのこうべ森の学校を目指しましょう。

管理に関する指針を得ることを目的としています。

今回は、こうべ
森の学校が、神戸
大学名誉教授の
武田先生と県立人
と自然の博物館の
橋本先生が中心に
なって実施された植生調査に協力しています。



調査は10m四方と2m四方のコドラート内の植生に
ついて、1本ずつ種類、高さ、被度を記録する方法です。

7月26日と27
日の調査では延べ
18名が参加しまし
た。8月9日と10
日の調査は台風11
号のため中止とな
りました。8月17
日の調査は4名が参加しました。



フラットで樹木
が疎らなところも
あれば、完全な藪
になっている場所
もあり、折からの
雨模様の中、ドロ
ドロになりながら
の調査でした。



雨天で度々延期となりましたが9月18日に最終の調
査を終えることができました。5年後にどのような植生
になっているか、とても興味深いところです。

これまでの第1回から8回までの報告書は、「再度山
荘」の図書コーナーで見ることができます。

少し難しい内容ですが、興味のある方は、ご覧になっ
てはいかがでしょうか。

六甲の花散歩 (その 35)

— ナワシログミ — (苗代茱萸) グミ科 (グミ属)

神戸市立森林植物園 福本 市好

秋はいろいろな木の実が実る季節です。すぐに頭に浮かぶのはカキやクリですが、今回は六甲山地で見られるグミの仲間を紹介いたします。味覚的にはカキやクリには及びませんが、昔はよく食べた思い出があります。グミの仲間には種類により常緑性と落葉性があり、花が咲く時期も異なります。春(4~5月頃)と秋(10月頃)の季節的な違いです。



(写真-1) 秋に花が咲く ナワシログミ

野山でよく見かけるグミは、春に花を咲かせて秋になると赤い小さな実を沢山付けるアキグミという種類です。久しぶりに食べてみたら渋みのある甘みが何とも懐かしい味覚でした。

また今の季節に花を咲かせているグミもあります。この



(写真-2) ナワシログミの葉 (表面)

の花には少し芳香があり、ナワシログミといいます。名前にナワシロとあるように、このグミは稲作の苗代の頃(4月下旬~5月頃)に実が熟すところからこの名前があります。この二種類のグミは実の熟れる時期を表した名前が付いています。他にも秋に花が咲くタイプとしてマルバグミやツルグミなどがあり、



(写真-3) ナワシログミの葉 (裏面)

これらは葉の形状や枝の特徴を表した名前が付いています。そして六甲山地にはあの有名な植物学者の牧野富太郎博士が有馬で発見してその名が付けられたアリマグミがあります。このグミが有馬の地で最初に見つけられ、基準となる植物標本が採られた産地名が付いた名前です。このグミは静岡県大井川流域を東限地とし、兵庫県淡路島を西限地とした分布域です。アリマグミは春4~5月に花が咲き、6~7月頃に果実をつけます。

グミ属は分類上、種のレベルのほかに変種や品種、また、種間交雑種や、地域変異個体も見られるために種の同定が困難なものがあるようです。これからは皆さんも野山を散策するときグミの木を見つけたら、いつの時期に花が咲いているか、実がついているか、葉の形状や枝に



(写真-4) ナワシログミの樹皮

どんな特徴があるかを細かく観察してみてください。もしかすると、交雑した種類が見つかるかもしれませんよ。

グミの語源ですがもともとはグイミと言ったそうです。グイは短い枝が棘のある、ミは果実を意味したもので、それが略されてグミとなったということです。



(写真-5) 春に花が咲く アキグミ

グミは古くから身近にいろいろと利用されてきた植物です。果実は食用や薬用として、材は強靱で折れにくいことから農具や大工道具の柄として利用されてきました。私が植物園に就職した頃の頃、「玄能の柄はグミ材で作るとよい」と先輩に教わったのを覚えています。

先人達の知恵は山仕事の中でそれぞれの木の特性を活かし、多くのことが伝承されてきました。これからの時代はこれまでと同じような森との関わりは難しいことかもしれません。しかし、少しでも先人達が自然から学び得たことを継承していかなければと思います。



(写真-6) 秋に実がつく アキグミ

最後になりましたが、文中でグミの「花」と言っていますが実はグミには花卉はなく、ガク(萼)が筒状に大きくなりその先が4つの花びらのようになっています。そして、雄蕊は萼筒上部に4個つき、全体的には釣り鐘状の形状になっています。

六甲の野鳥撮影の記録（その4）

日本野鳥の会会員 村瀬 眞一郎
全日本写真連盟会員

【いつも見られる鳥（後編）】

3月4月号では、ホオジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、ウグイス、カワセミ、モズを取り上げました。今回はその後編で、前編よりは少し見つけにくい野鳥ですが、六甲山系ではよく見かけます。

[ハクセキレイ]

頭上は黒く、頬は白いですが目のところに黒い線があります。羽やお腹は灰色をしています。スズメより少し



ハクセキレイ

大きいです。餌を探すため、道端に降りて歩くことが多いです。スーパーの駐車場などでもよく見かけます。チュンチュンと鳴きます。

[セグロセキレイ]

ハクセキレイとよく似ています。頭上から背中全体が黒で、お腹は白、目のところの黒い線はありません。



セグロセキレイ

スズメより少し大きいです。餌を探すため、道端に降りて歩いています。チチと鳴きますが、あまり聞いたことはありません。

[キセキレイ]

頭上から背中全体が灰色か黒で、お腹が黄色です。上の二つとここが違いますので、みわけられます。スズ



キセキレイ

メより少し大きいです。砂防ダム、池や小川などの水辺に多くいます。尾を上下に振って時々道端も歩いています。チッチッチとよく鳴きます。

[コゲラ]

頭から背中中は黒褐色で、背中には白の縞模様があります。スズメと同じ位の大きさです。キツツキの仲間なの



コゲラ

で、木の幹をつついています。ギョッギョッと鳴きます。きしんだ扉を開けた時のような音です。

[カワラヒワ]

頭は灰色、背中中は褐色、お腹は黄色で尾羽には黄色い斑模様があります。嘴は太く肌色をしています。街中でも時々見ることが出来ます。スズメと同じ位の大きさです。キリキリッと鳴きます。



カワラヒワ

[トラツグミ]

全身黄褐色で、黒い斑点があります。虎のような模様が、その名の由来です。ヒヨドリ位の大きさです。地上で餌を探すと見ることが出来ます。ヒーヒーと鳴きます。



トラツグミ

[アオサギ]

体は青灰色、頭は白く目から後頭部にかけて黒帯があり、嘴は黄色です。日本のサギ類の中では大きい方です。池や川などで魚を捕っている姿をよく見かけます。地上ではグワー、飛びながらキャッと鳴きます。



アオサギ

シリーズ ボランティア活動 ③

ボランティアを体験して 乙井 禮子

再度山森の学校でボランティアを始めて早や三年が過ぎました。四季を通して山の移り変わりを楽しみながら、雑木を切る。廻りの木々が大きく育つことを願い、時にはヘビや毛虫・蚊に悩まされながら頑張っている私がいいます。また、北区社会福祉北区ボランティアにも十年余り参加し、ボラセンより「いつもお世話になっております」の書き始めで、何処からの依頼ですと、各イベント(感謝祭)、桜、紅葉、菊の見学、病院へのおとも、買い物等々の手伝い、小中学校・児童館でのアイマスクと車いすの体験、小学校(なかよし学級)見守り等々忙しくしている他、私が長年修業をしてきた浄瑠璃を各施設

の方々に(数十ヶ所)三味線の弾き語り、また、民謡・童謡・歌謡曲と一緒に歌うと、こんなのが三味線で弾けるなんて思わなかったと喜び、この曲は小学校で習ったと昔を思い出して声を弾ませ話をする笑顔が、私の一番遣り甲斐のあるひと時でもあります。最近では民謡・童謡を創作浄瑠璃にして紙芝居を作って楽しんでいただいています。ある学校で猿蟹合戦を披露したところ、途中で踊りだす子がいたり、乙井先生が一番良かったよ!なんて泣ける言葉を言ってくれたり・・・ほんとうは私自身が子供から多くパワーをいただいているのに・・・これからの励みとして頑張っていこうと思っています。さらに! 日本の文化・伝統芸能を大切に「次世代へ! 伝~伝承」して行きたいです。

ワンポイント救急法

蜂・マムシ・マダニに注意

日赤兵庫救急法指導員 齊藤 豪

森の作業での受傷事故は、ナタやノコの不適切な取り扱いによるものが多いのですが、ヘビ・ハチ・ダニ・ウルシ等毒性を持つものによる被害も発生しています。

①ヘビ マムシに噛まれると10分前後で口が腫れてきます。痛みが起こり、適切な応急手当をしないと死亡する危険があります。

手当 安静にします。手足を曲げ伸ばししたり走ったりしてはいけません。ヘビの毒素により脱水症状を起こしやすいので、水分を与えます。急いで医療機関に搬送します。(毒ヘビの場合、血清の投与など適切な治療をしないと死亡する危険があります。)

事故防止 ヘビは湿った陽の当たらない場所を好みます。長袖・長ズボン・厚手の靴下・手袋を着用し、皮膚を露出しないようにします。

②ハチ スズメバチやアシナガバチなどに刺されると痛みと腫れが起こり、ハチ毒に過敏な人は、1匹に刺されてもアナフィラキシーショック状態になることがあります。

これは、ある特定の物質に対する重篤なアレルギー反応で、気道が腫れて息ができなくなったり、血圧がひどく下



大峰山系 行者還小屋の軒先にあったスズメバチの巣

がったりして致命的になりうる緊急事態です。

手当 針が残っていたら、根元から毛抜きで引き抜くか、横に払って落とします。冷湿布をします。医師の診療を受けさせます。

事故防止 ハチは黒いものを敵だと思って攻撃してくる習性があるので黒っぽい色の衣服は避けてください。香水や化粧品も避けてください。ハチの巣が近くにあることに気が付いたら、姿勢を低くして、ハチを刺激しないよう、ゆっくりと離れてください。

③マダニ マダニは長時間吸血します。無理に取り除こうとすると、口器が皮膚の中に残り、化膿することがあります。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)を引き起こすウイルスを媒介することもあります。

手当 無理に取り除かず、皮膚科等医療機関で適切な処置を受けてください。

事故防止 首にタオルを巻き、長袖・長ズボンなど裾縮まりのしっかりしたものを着用し、皮膚を露出しないようにしましょう。

④イラガ・ウルシ イラガの幼虫が出す毒液は電気が走るような激痛と腫れを伴います。ウルシの樹液にふれると皮膚が赤くなったり、水泡・かゆみなどがみられます。

手当 流水で患部をよく洗い、症状がひどいときは医師の診療を受けさせます。



イラガ

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	森の手入れ	木工工作	植生調査	自然観察	苗づくり
8月17日(日)午前	33名	林さん	22名	7名	4名		台風のため変則
8月17日(日)午後			11名	16名	4名		
9月13日(土)午前	64名	横田さん	62名				
9月13日(土)午後			20名	23名		8名	3名

■参加人数報告

8月の延参加者は214名でした。4月から8月までの参加者累計は1,041名となりました。

■第25回藤木祭

9月28日(日)藤木九三さんの生誕127年を祝う、第25回藤木祭が高座の滝にて開催されました。藤木九三さんは、六甲山ロックガーデンの名付け親とされ、RCCの設立に携わったり、ロッククライミング技術の基礎づくりをされた、日本を代表する登山家です。年に1度岳人が集い、故人を偲び登山の発展と安全を祈願する式典です。芦屋市長はじめ多くの来賓の祝辞の後、恒

例になったアシヤユースコーラスによる素晴らしいコーラスを楽しんだ後、出席者全員で「雪山賛歌」を全員で合唱しておひらきとなりました。



お知らせ・掲示板

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠東お多福山すすき草原再生プロジェクト

10月8日は本年第4回目の活動日でした。今回の活動はコドラート内のネザサ等の刈り取り作業が中心でした。次の活動日は11月8日(水)の予定です。ネザサの全面刈りを予定していますので、より多くの方のご参加をお待ちしています。

♠摩耶の森クラブ

次回の月例会の開催予定日は

10月26日(日) 活動場所は摩耶山掬星台

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠こうべ森の小学校

次回開催予定日は 12月23日(火・祝)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 11月8日(土)・12月21日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をさせていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記

月10回余り、再度の森へ来ます。様々な樹木、花々、葉っぱがそれぞれの季節の装いで私を迎えてくれます。その時々には感じないものの、何日かすればその様相が確実に変わって行きます。まもなく私の好きな紅葉の日々がやって来ます。素晴らしいが故にそれはあまりにも速

く過ぎ去って行く様に感じます。

年々歳々、樹木達は等速度でそれを繰り返しているのかもしれませんが、私の中の一年がなぜこんなに早く移ろっていくのか、最近とみに感じるのです。とにかく、今年の錦秋を楽しみましょう。(I.H)